



Toshio Kogammaru

こがねまる・としお／一九七三年生まれ。九三年創価大学文学部人文学科入学。九七年、同大を卒業し、東京富士美術館入社。九九年より学芸部学芸員、現在、学芸部企画課副主任。

「北京・故宮博物院展」開催中 ご来館をお待ちしております

東京富士美術館
学芸員
小金丸敏夫さん
創価大学文学部卒業

5月8日
〔火〕まで

創価大学は「人間教育の最高学府たれ」「新しき大文化建設の揺籃たれ」「人類の平和を守るフォートレス(要塞)たれ」との建学の精神のもと多くの卒業生が、この精神を体現し人類の平和と文化に貢献したいと国内はもとより世界各地で活躍しています。

三月二十九日、東京・八王子の創価大学正門前にある東京富士美術館で「北京・故宮博物院展」が始まった。

「テーマは、紫禁城で暮らした后妃たちとその子どもたちです。宮廷女性を精緻に描いた美人画や華麗な装飾が施されたゆかりの品々など、故宮に生きた女性たちの生活や文化、教育のありようがうかがえる貴重な展示となっています」と、この展覧会に携わる小金丸敏夫さんは語る。

この展覧会は、日中国交正常化四〇周年を記念したもので、約二〇〇点に及ぶ展示物には日本の国宝にあたる国家一級文物が一六点も含まれている。見どころの一つは、南宋の「女孝経図」である。これは、女性が身に付けるべき素養や振る舞いなどを説いた絵巻物で、海外での展示は今回が初となる。



ました。文化の深さを実感し本物の迫力に感動です」「貴重な宮廷文化を見ることができ、夢のようです」などの感想が寄せられている。

創価大学は、中国から国交正常化後初の国費留学生六人を受け入れたが、そのうちの一人が現・駐日中国大使の程永華氏である。大使は、同展オープンングのあいさつで「私としては、個人的に、留

東京富士美術館「北京・故宮博物院展」会場で



粉瑠璃円式香水噴子／香水瓶
清末期 北京・故宮博物院蔵

学時代の思い出が刻まれたこの八王子の地で開催されることを本当に喜ばしく思っています」と語り、この展示を通して「中国と日本の友情を確認して、さらにそれを強化し、両国の国民がますます友誼を深め、絆を強め、友好の『金の橋』を強固にしていけるものと期待して

います」と語った。
小金丸さんは、一九九三年に創価大に入学。同年、同館で開催された「大ナポレオン展」を見たことが、学芸員になったきっかけだという。
「フランス絵画の魅力、本物のすばらしさに感動して、十数回も通いました」
同館は、設立以来、「近世フランス絵画展」や「女性美の五〇〇年展」などを開催、その質の高さや企画の斬新さで注目を集めてきた。
「当館のモットーは、『世界を語る美術館』です。これからも、世界最高レベルの美術を新しい視点で紹介する展覧会を企画したいと思っています」
各国の美術館と協力してさまざまな文化を紹介したい、海外で日本文化を紹介する事業にも力を入れたい。それが、多文化共生につながる道と、小金丸さんは全力で自らの業務に取り組んでいる。



Soka Report | 創立者の軌跡 | 平和・文化・教育の世紀へ 29

創価大学の創立者・池田大作先生は、世界の平和と人権を守るため、アンドレ・マルロー氏やガルブレイス博士、ノーベル平和賞のポーリング博士や南アフリカ共和国のマンデラ元大統領など、世界各国のさまざまな分野の学識者と対話を重ねてき

た。世界的な美術史家、ルネ・ユイグ氏との会談(写真)は『闇は暁を求めて』に収められている。同氏は東京富士美術館の名誉館長を務めたこともあり、フランス絵画の名品を集めた「近世フランス絵画展」等で絶大な協力をいただいた。